



「国際センターだより」では、土木学会の国際活動の一端を紹介しています。国際センターが毎月発行している「国際センター通信」と合わせて是非ご一読ください。

## News Pick Up !!

### アジア土木学協会連合協議会 (ACECC) 堀越事務総長に聞く



ACECC事務総長  
堀越 研一氏 (大成建設)

2017年2月1日に発行された「国際センター通信」第52号では、2年後に土木学会がホストとなり、東京で開催される第8回アジア土木技術国際会議 (CECAR8) を控え、アジア土木学協会連合協議会 (ACECC、会長：日下部治氏 (国際圧入学会)) において日本のさらなる活動と貢献が期待されていることから、ACECC事務総長の堀越研一氏 (大成建設) にインタビュー形式でお話を伺った。

まずACECCにおいて特に力を入れている活動については、①技術委員会 (TC)、②ACECC加盟国による産官学の技術者交流の場としてのCECAR、③ACECC賞 (プロジェクト賞、功績賞) の授与、④若手の育成と若手技術者間の交流 (Future Leader Forumの立ち上げ) などの紹介があった。

また、日本が活動をリードしていくにあたって、特に、防災、環境、交通、都市といったテーマは、日本が長い間取り組んできた分野であり、産官学にトップクラスのエンジニアが揃っており、日本の豊富な知見と経験を世界に発信し、世界に貢献できる分野と考えていること、経済レベル、インフラ整備状況が様々で、アジア特有ともいえる多様性にいかに対処するかと

いったACECC発足時からの課題を踏まえ、経済レベルに配慮した年会費を設定することや、ACECCが主催する理事会や国際会議も過剰な負担とならないよう心掛けている、とのことである。

CECARは、土木分野ではアジア域内で最大規模の会議であり、3年に一度開催される。日本での開催は、2001年に東京で開催して以来、18年ぶり2回目となる。2020年東京オリンピックの前年であり、オリンピック関連施設や周辺のインフラ施設の建設や準備状況を紹介でき、8年が経過する東日本大震災からの復興状況を世界にアピールできる良い機会であること、さらには、2019年はACECC設立20周年にあたり、ACECCとしても今後を左右する大きな節目の年とのことである。

CECARが他の国際会議と異なる点は、アジアのインフラ整備に関わる産官学のリーダーが一同に会し、アジアのインフラの将来を議論することにある。CECARでは、分野横断的に、かつ、産官学の枠を超えた職域横断的に最新の技術や知見、経験を議論することにしている。また、CECARはACECC加盟国 (現在は13か国) の学会長が一同に介する機会であり、CECARを通して学会長全体で合意したメッセージを世界に発信する。これらを通して、ACECCそのものの魅力と参加意義を高め、ACECC加盟国を増やしていきたいとの思いを語られた。

(詳しくは、日本語版HPおよび英語版HPに掲載されている国際センター通信第52号をお読みください。)

## Event Calendar

国際センターが企画するイベント (行事) については、以下のURLでアクセスし、「イベント情報&開催報告」をご覧ください。

<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/>

News Pick Up ! と Event Calendarの詳細は、毎月発行の「国際センター通信」をご覧ください。「国際センター通信」は下記の学会ホームページ (日本語版・英語版) からアクセスできます。また、メール配信を希望される方は、国際センター事務局までメールにてお申し込みください。 ※国際センター事務局 e-mail : [iac-news@jsce.or.jp](mailto:iac-news@jsce.or.jp)

- 日本語版HP : <http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/26>
- 英語版HP : <http://www.jsce-int.org/pub/iacnews>
- Facebook : (日本語版) <http://www.facebook.com/JSCE.Jp/>
- (英語版) : <https://www.facebook.com/JSCE.en>